

川俣の村山さん

エイジレス
ふくしま

自宅でホタルの餌となるカワニナなどを育てる村山さん。「私たちは自然の中に生かされている」と生き物や自然に愛を注いでいる

▲10月18日 福島民友新聞掲載

ホタルが見られるところが減っていますが、みなさんは見たことがありますか？



記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。

(When) いつ

(Where) どこで

(Who) 誰が？

(What) 何を？

(How) どのようにしてホタルを増やした？

(Why) なぜこのプロジェクトを進めている？

川俣町の村山英一さん(67)は収集家のひとく、カワニナやウナギ、ナマズなど動植物を自宅で育てている。2019年からは町内のまちづくり団体「聚溪会」の一員として「ホタルプロジェクト」を推し進めている。

自然を感じる町に

67歳の効用は生まれず。めぐみに取り組んだ21年は50匹ほどの幼虫は誕生した。2019年からは町内のまちづくり団体「聚溪会」の一員として「ホタルプロジェクト」を推し進めている。

失敗にもめげずに

時、町内飯坂地区のキャンプ場「峠の森自然公園」でホタルが生息していること

行き詰まりかけていた当時、町内飯坂地区のキャンプ場「峠の森自然公園」でホタルが生息していること

年はとうなつていて、ホタルの来年の姿に期待を膨らませている。(南哲哉)

魚つかみなどを育つたり、子どもたちに自然を感じもらおうとプロジェクトが始まった。

開始当初、ホタルはなかなか育たなかった。20年に

は自宅の水槽で飼育したものが、幼虫は生まれず。めぐみに取り組んだ21年は50

匹ほどの幼虫は誕生した。

が成長したのは5匹ほど

になりました。

トが育たなかった。20年に

は、溪流付近の環境

が成長したのは5匹ほど

になりました。